

平成29年度 秋田県総合政策審議会 第1回人・もの交流拡大部会 議事要旨

1 日 時 平成29年7月18日(火) 午後3時45分～午後5時15分

2 場 所 ルポールみずほ「ききょう」

3 出席者

○人・もの交流拡大部会委員(旧観光・交通部会委員)

株式会社SKO若女将、男鹿温泉郷女将会 会長 佐藤 浩世

秋田県演劇団体連盟 理事長、一般社団法人秋田県芸術文化協会 理事 富橋 信孝

株式会社アジア・メディアプロモーション 代表取締役 渡邊 竜一

秋田大学教育文化学部 准教授 伊藤 恵造

秋田大学大学院理工学研究科 准教授 日野 智

□県

観光文化スポーツ部 次長 猿橋 進

〃 次長 嘉藤 正和

他 部各課室長 等

4 部会長代理あいさつ

□杉山観光戦略課戦略企画班長

今回は、打川委員が所用により急遽欠席となっている。部会長代理である渡邊委員からご挨拶をお願いします。

○渡邊部会長代理

打川さんとは横手の事業を通じて様々な情報交換をしている。打川さんの穴を埋められるよう、今日一日頑張りたい。

前年度、東北のインバウンドに関するマーケティング調査として、実際に台湾、タイなどに赴いて現地の方々と意見交換をさせていただき、他県の観光状況を聞かせていただく場が多かった。政府としては、東北のインバウンドを前年比3倍に増やそうとする戦略で非常に多くの予算や制度を設けて、熱心に頑張っているところである。ただ、東北各県の個性が出ていない状況や全国それぞれが競い合っている状況の中で、秋田はどのように特色を出し、交流人口を増やすだけではなくいかに地元にお金を落としてもらおう仕組みを作っていくか、というところが重要であると考えている。

先日、東北運輸局の局長と話をしたが、昨年度はプロモーションに重点を置いて7割程度の予算を充てていたが、今年度はより一層受け皿作りに力を入れていくとの話であった。それだけに地元秋田に精通されている皆さんに、今年は新たな専門委員3名も加わっているということで、活発な意見交換を行い、秋田への経済効果が具体的に現れるような人とももの交流を進める部会にしていきたい。

5 委員自己紹介

□杉山観光戦略課戦略企画班長

今年度は第3期ふるさと秋田元気創造プランを策定することから、昨年度からお願いしている4名の委員に加え、新たに3名の方に専門委員をお願いしている。

については、委員の皆様方からご挨拶をお願いしたい。

○渡邊部会長代理

旅行情報誌の編集、イベント等を長くやってきており、今は東京から月2回程度秋田に通っている身である。他の地域の事例などにより秋田に新たな風を吹かせる立場でいたいと考えている。

○佐藤委員

男鹿温泉で3件の旅館を経営している株式会社SKOの佐藤である。その他に男鹿温泉郷女将会で会長をやっている。昨年に引き続き、今年もお願いする。

○富橋委員

秋田県演劇団体連盟理事長と一般社団法人秋田県芸術文化協会理事という立場でこの場に出席している。現在は県・市連携文化施設のワークショップにも参加している。会社はイベント会社で、株式会社スペースプロジェクトの役員をやっており、男鹿や大館の文化会館の舞台の操作、照明音響の管理などの委託管理をしている。新しい文化施設に関しては、舞台・演出について長く携わってきたので、そういった面でも様々な意見を言えたらと考えている。

また、昨年開催の第1回石井漠・土方巽記念国際ダンスフェスティバルの実行委員もさせていただいた。昨年はアメリカ、韓国、台湾などからも様々なダンサーが来た。今後もダンサーの交流はもちろん、若い人にダンスを見てもらって秋田出身の人材を育成していきたいと考えている。

○伊藤委員

専門はスポーツ社会学である。具体的には、高度経済成長期にできた団地に住んでいる人々がどのように生活を維持しているのかに関するスポーツを切り口にした調査や、現在日本の若いサッカー選手がアジア圏に流出している状況が多く見られることについて、良い点やその背景にある問題点を明らかにしようとしている。いずれにしても、スポーツを研究してきた身であるため、観光・交通という分野においては勉強しながら、提言していきたい。

○日野委員

専門分野は都市計画や交通計画である。交通の中でもバスなどの公共交通を専門としている。よろしく願う。

6 議事

○渡邊部会長代理

審議内容は、議事録としてウェブサイトに掲載されるが、その際には委員名を公開するのでご了承願う。

(1) 平成29年度の観光・交通部会の進め方について

□益子観光戦略課長

(資料1により説明)

(2) 「第2期ふるさと秋田元気創造プラン」の実施状況について

□益子観光戦略課長

(資料2-1により説明)

□石川参事兼道路課長、高杉港湾空港課副主幹兼班長

(資料2-2により説明)

□益子観光戦略課長

(資料2-3により説明)

○渡邊部会長代理

部会の前段で開催された総合政策審議会では、各部会は4回開催するということがあったが、当専門部会が3回というのは、どういうことか。

□益子観光戦略課長

開催回数については各専門部会に任されており、タイトなスケジュールの中で4回の開催は厳しいと判断した。10月の第2回総合政策審議会に向けて当専門部会からの提言をまとめることとなる。専門部会の第2回が8月8日、第3回が8月29日となっており、その中で様々なご意見をいただき、メール等で確認しながら提言をまとめて、第2回総合政策審議会に提出したいと考えている。

○渡邊部会長代理

昨年度と比べると部会の日程がタイトになっているが、他に理由はあるのか。

□益子観光戦略課長

第3期プランの策定に合わせた形で、専門部会のスケジュールを7月から8月に集中させることとなった。例年であれば、新しいプランの策定がなく、既定のプランのみの審議であり、今回は新規プランの策定という特殊事情があるためである。

○渡邊部会長代理

短期間で、より政策に反映される議論を行うということか。

□猿橋次長

9月議会で骨子案の説明、12月議会で素案の説明、2月議会で案の完成というスケジュール

ルで進める予定である。9月議会の骨子案作成までが重要で、どのような施策を行っていくのかを十分議論していただきたい。この短い期間で4回開催は厳しく、3回の中で集まってお話しただけだけでなく、様々な形でご意見を伺いながら議論を深めていきたい。

○渡邊部会長代理

昨年、一昨年と専門部会に参加して、他の専門部会の資料や他の部会委員からの意見をいただいたことがあり、それらを比較対象として吟味した経緯もあった。今年度は、専門的に当部会資料だけで、できるだけ踏み込んだ形で議論を深めていき、提言とするということか。

□益子観光戦略課長

総合政策審議会では、部会間の情報共有をできるだけするということであり、総合政策課と調整しながら、他の部会との情報共有などの対応はしていきたい。

○渡邊部会長代理

企画部会2回のうちの2回目がもう一歩踏み込んだ形になり、事務局の方に意見を投げかけて最終的な提言に繋げていくということになるのか。

□益子観光戦略課長

そのとおり。

(3)「第3期ふるさと秋田元気創造プラン」の柱立て案について

□益子観光戦略課長

(資料3により説明)

(4)「第3期ふるさと秋田源樹創造プラン」を構成する施策の提言について

○渡邊部会長代理

来年度から4年間の県の施策について、委員の方々から提言をお願いする。

○富橋委員

第3期プラン策定についてはこれから提言するが、先ほど説明のあった第2期プランの実施状況はあくまでも報告ということで良いか。

□益子観光戦略課長

第2期プランについては今年度が最終年度で、現在事業が進行中である。その総括についてはまた別の機会で行うこととなるが、今回は現在進行している第2期プランの内容等を踏まえた上で、第3期プランについてアドバイスをいただければと考えている。

○富橋委員

了解した。

去年、踊る秋田として海外誘客を推進している中で、韓国のハブ空港を活用すれば、秋田の誘客拡大が図られると感じた。その点で秋田と韓国の国際便の再開は重要と考える。韓国の国際便の再開については、現状どうなっているのか。

□益子観光戦略課長

今まさに、所管している観光振興課長が副知事と一緒に韓国、香港を訪問しており、韓国への訪問は、航空会社との国際定期便の再開に向けた交渉が目的である。大韓航空との話し合いでは、再開は非常にハードルが高く、運休が続いている。委員がおっしゃるように韓国のハブ空港と秋田がダイレクトに繋がれば非常に有効であるが、現状はなかなか困難である。

逆に国内線の秋田ー羽田の利便性が向上しており、羽田空港の国際化がかなり進んでいることから、羽田空港をハブとした海外誘客に力を入れているところである。ソウル便を諦めるわけではないが、現在機能している路線を活用した取組も重要と考えている。

○渡邊部会長代理

今年度、インバウンドに力を入れているとのことだが、最近男鹿のコンテンツが強いと再認識したことがある。インバウンド施策について、佐藤委員からご意見を願います。

○佐藤委員

日本人のツアー客がバス代高騰の影響などにより減っている中で、インバウンドのお客様が非常に多くなり、毎日様々なアジア圏のお客様に来ていただいている。なまはげを見て、名物の石焼きをやるというのが定番の形であるが、旅館としては思ったほどお金を使ってもらえなかった。

こちら側の勉強不足というのものもあるが、割と遅い時間に旅館に入って、ばたばたとなまはげ太鼓や石焼きなどをやって、次の日は早い時間に出発するお客様が多い。日本人であれば、食事の際にお酒を飲み、売店で物を購入する方が多いが、海外の方は、食事の際に酒を飲むことも少なく、売店での購入も少なかった。

海外の旅行客への対応などの情報収集が足りなかったと感じた。参考資料や勉強会の開催などがあるとありがたい。

○渡邊部会長代理

昨年度インバウンド誘致をしている空港を調査した際、成功している空港は富士山静岡空港と判明したが、今年国際線の施設と売店を増設する。この空港で最も売れている商品は、実は「白い恋人」とのことであった。海外の方は、静岡空港でなく日本に来ているという認識であり、日本ならではの商品を買っていく。そこでさらに静岡の商品も買ってもらって、認知してもらうという取組をしている。静岡の商品にこだわらず国内向けと海外向けで商品を分け、インバウンドのお客様用のラインナップをきちんと用意しているようである。

○佐藤委員

他から売れると聞いた商品を置いてみたこともあるが、国や状況により求められる商品が

様々で、まだ対応できていない部分がある。旅館側も情報交換はしているが、海外の人を呼び込み、お金をどう使ってもらうかについて、まだまだ工夫が必要と感じている。

○渡邊部会長代理

事務局にお聞きするが、インバウンドの誘客推進は、これまでと同様の地域を重点市場に位置づけ、プロモーション等を展開していくのか。

□益子観光戦略課長

今年度については、台湾、韓国、タイ、中国の4つを重点市場としていたが、来年度以降はこれらに限る必要はなく、新たなマーケットや手法について提言していただきたい。

○渡邊部会長代理

スポーツの国際交流の観点で、今までの資料を踏まえて、交流の起爆剤やきっかけなどのご意見があれば、伊藤委員からお願いしたい。

○伊藤委員

スポーツの場合は、東京オリンピック・パラリンピックが控えており、あらゆる自治体が様々な取組をしており、適切な施策を進めることは大事である。

当部会の第2期プランを拝見すると、スポーツを交流人口の拡大との関連を協調した位置づけとしている。スタジアム整備や東京オリンピックなどの内容は観光・交通部会に馴染むが、生涯スポーツの推進や競技力の強化など、交流人口拡大に直接関連しないように見える施策をどう議論すればよいのか、とまどっている。

□飯坂スポーツ振興課長

観光文化スポーツ部としてプランを掲げる際に、どうしても観光・交通と関連づけた言い回し等が出てくることがある。我々が施策を推進する際には、スポーツ王国の復活を目指しているが、ただ単に過去のスポーツの強い秋田に戻すだけでなく、日本一の少子高齢化の中で、いかに県民が充実したスポーツライフを送るかを目指すことも重要と捉えている。参考資料の柱立て案の「ライフステージに応じた多様なスポーツ活動の推進」や、「スポーツ環境の基盤となる『人材』と『集いの場』の充実」という施策の中で、考えていきたいと思っている。

また、指標としての成人のスポーツ実施率は、国が推奨している65%を目指しているが、現在49.5%となっている。全国的に見れば高い割合となっているが、やはり国と歩調を合わせて65%を達成するために、依然低率である20代から40代の男女、70代の高齢者にスポットライトを当てて、施策を講じていきたいと考えている。

凝縮した資料となると観光的要素が強くなるが、中身に関しては幅広いスポーツとしての見地から検討いただきたい。

□猿橋次長

高質な田舎と交流人口の拡大が新プランの計画の肝となるが、スポーツの中で、やや交流人

口の拡大に直接結びつかないような所がある。最終的に高質な田舎を知事が目指している中で、まず秋田県内のスポーツの振興を図り、その先にあるものが交流の拡大、その先にあるものが高質な田舎という流れを作るための計画であり、全体として高質な田舎を目指すということで御理解いただきたい。

○伊藤委員

指標として設定しているスポーツの実施率や国体の得点が、どのように交流人口拡大に繋がるかを説明できれば面白いし重要と考える。交流人口の拡大に向かうため、他に良い指標がないかと考えて発言した。例えばスポーツボランティアの参加比率が関連指標として挙げられているが、秋田としてのスポーツの新たな指標を設けていけたら良いのではないかと考えている。

○渡邊部会長代理

自治体によってはスポーツを教育庁で担当しているなど、行政としてスポーツの分野をどう整理して位置づけるかについては、いろいろな考え方がある。指標については、国体の得点だけではなく、誘客のコンテンツとしてメディアを通じた交流に係る指標などの新しいものがあれば良いのではないかと考えている。

□猿橋次長

まさしくそのとおりであり、我々としても新プラン策定の際には検討していきたいと考えている。委員の皆様からは、先ほどのようなアドバイスをお願いします。

○富橋委員

施策4の「③全国や世界のひのき舞台で活躍できる選手の発掘と育成・強化」と掲げているが、今秋田でスポーツというとバスケットボール、サッカー、ラグビーがメインである。やはり、地元の秋田の選手が世界的に活躍できるという意味で、北都銀行のバドミントン女子のような活躍は、地元でやっている子供たちにとっても凄いい刺激になると考える。全国的には卓球が人気であるが、秋田の場合はバドミントンの強化を目指しても良いと思うが、いかがか。

□飯坂スポーツ振興課長

おっしゃるとおり、北都銀行バドミントン部は非常に頑張っており、スーパーリーグのインドオープンでペアが優勝し、カナダオープンでもシングルとペアが優勝するなど、米元・田中ペアは世界ランキング6位と頑張っている。

残念ながら、小中学校のバドミントンの部活動が歴史的に少ない県であり、バドミントン選手を目指す子供が少ない現状である。そんな中で北都銀行がバドミントンのジュニアクリニックを設けて、多くの地元の子供たちに練習の機会を作ってくれている。ジュニアクリニックについては、バスケットのノーザンハピネッツやサッカーのブラウブリッツも設けている。プロスポーツチームが地元の子供たちのために実施してくれているところであり、少しずつ成果が出ていると感じている。これらは小中学生の子供たちが対象であるが、期待したいしできる限りの支援はしていきたいと考えている。

また、世界で通用するという点では、タレント発掘事業でフェンシングの種目強化を平成20年より実施しており、中高校生で全国大会で優勝、世界大会で入賞する選手が出てきている。ライフル射撃やスピードスケートについても、競技団体の希望でタレント発掘事業を始めたが、ライフル射撃は小学生2人が全国大会で優勝している。このような形で、世界で活躍できる選手を増やすための事業を続けているところであり、少しずつ成果が上がってきているため、今後も応援いただきたい。

一方で、1番の課題は、少子化のために部活が立ち行かない小中学校が非常に多くなっていることであると考え。子供が少ないために部活で人が集まらないなどにより、子供たちがやりたいスポーツをできない状況が進んでいる。このような子供たちにどのように手を差し伸べてあげられるかも併せて検討していかなければいけないと考えている。

○渡邊部会長代理

交通政策については、昨年は生活路線や交流路線が議論の中心であった。今年度の重点施策は道路ネットワークの整備促進、道の駅の機能強化と個性創出、環日本海クルーズ振興の推進となっている。特にクルーズ船の受入については、どの県でも地元バスの手配が大変だと聞いているが、秋田県はいかがか。また、道の駅は地元の経済効果を高めるのに重要な拠点となっていると聞く。これら交通政策について、日野委員からご意見をいただきたい。

○日野委員

先ほどの伊藤委員と同様で、交通の分野も観光の観点だけではなく、他の部会の議論が入ることもあると考える。県庁組織の問題もあるが、横断的かつ様々な観점에서議論が必要である。

道の駅に関しては、機能強化が注目されているが、現状よくあるのは、高速道路を整備した場合に寄ってもらえなくなるなどの問題が生じることである。道の駅を整備していく際には、ただ整備するのではなく、どのような人の流れを目的とするかを検討すべき。観光施設としてだけでなく、公共施設と併せて地域の拠点として、そこに行けば様々な行事ができるなど、それぞれの地域に合わせた形や様々な見地での検討が必要と考える。

事務局にお聞きするが、クルーズ船の受入は経済効果が高いのか。どのくらいの経済効果があるか計算されているのか。

□伊藤港湾空港課政策監

クルーズ船の経済効果については過去に様々な議論がされてきたが、どのくらいの経済効果になるかの具体的な数値を出していない。ただ、一般的には1人当たり1、2万円程度を消費すると想定されており、約3千人乗船するダイヤモンドプリンセスが1回来港した場合で約3千万円の効果があるということになる。今年、港湾空港課でコンサルタントに委託して、外港クルーズ船のアンケート調査を実施しようとしており、この結果により経済効果が詳細に見えてくるものと考えている。

○日野委員

私はクルーズ船に乗ったことはないが、朝早く入港して乗客がバスで移動し、帰ってきてす

ぐ出港してしまうイメージがある。経済効果が低いとは思わないが、効果を上げるには例えば船に積み込む食料などを秋田で積んでもらうための売り込みなども有効ではないかと考える。

□猿橋次長

一般的に、乗客は秋田の地に降りて買い物をし、宿泊しないというイメージがあると思うが、秋田で降りて宿泊し別の港から乗るということもないわけではない。クルーズ船受入の効果としては、秋田の観光地に来ていただいて、秋田のことを知ってもらうことや、秋田の認知度を高める効果も期待しているが、併せてお金を使ってもらうことも考えていく。

○渡邊部会長代理

非常に重要な観点であると感じる。観光庁やJ N T O（日本政府観光局）は観光交流人口が多くなると経済効果があるとしているが、観光総消費額を人数で割った数値を用いている。定住人口1人当たりの年間消費額が125万円で、定住人口が1人減った場合に交流人口に置き換えると、日帰りの国内旅行客は80人、宿泊を伴う国内旅行客は25人、外国人観光客は8人で賄えることができ、これは交流人口の総消費額が多いからと結論づけている。

私はこれは誤りだと思っていて、総消費額の大半はキャリアと宿泊であり地元に着る額はもっと少ないはずで、地元で経済効果を生むには外国人観光客8人では足りない。逆を返すと、地元にお金を落としてもらうための仕組みづくりが重要で、現状ではそれができていないと感じている。先ほどお話ししたように秋田だけにこだわる必要は無く、ターゲットに合わせたものを提供することが大事であるし、1人当たりの消費単価を上げるための努力が重要と考えている。

（5）その他

□益子観光戦略課長

（観光・交通部会のスケジュールの再確認及び部会の名称変更説明）

○渡邊部会長代理

スポーツと同様に輸出についても議論する領域が難しくなっている。今まで農林水産部会で和牛の輸出を取り上げており、他の品目の輸出は当部会となっており、線引きが難しく感じている。

台湾で9月から牛肉の輸入が解禁されており、秋田牛の輸出もできるようになると台湾は当部会の重点市場としていることから関係していくのではないかと。

□大友秋田うまいもの販売課長

平成27年度に農林水産部に販売戦略室が設置され、そちらで農林水産物の輸出を所管し、お酒などの食品の輸出は当課で所管するという分担になっているが、横の連携を図りながら取り組んでいきたい。

○渡邊部会長代理

この部会の提言の中に盛り込んでも良いと言うことか。

□猿橋次長

農林水産物については、「稼ぐ農林水産業創造部会」で取り扱い、当部会でそれらに関わる提言があった場合は、「稼ぐ農林水産業創造部会」に提供する形になる。

○富橋委員

東京オリンピック・パラリンピックは当然スポーツがメインとなるが、文化の行事や各地域の掘り起こしも盛んに行われていくこととなる。そのような状況の中で、全国一を誇る17件の重要無形民俗文化財など秋田の文化をどう発信していくかが重要なポイントとなる。

資料22ページの今後の対応方針に東京キャラバンについて記載されているが、こういった東京オリンピック・パラリンピック以外の、文化の後継者不足対策に繋がる今後の施策についてお聞きしたい。

□石黒文化振興課長

交流を含めて文化をどうしていくかが課題である。2期計画は国民文化祭があり、文化の継承を中心にやってきたが、3期計画では、委員からお話があったとおり2020年に多くの方が国内を動き回ることとなる。これを1つのテーマとして、秋田の文化の素晴らしさを紹介していきたい。この状況の中で目玉となるのが東京キャラバンである。

東京キャラバンは、東京都による2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた文化プログラムで、国内の文化を新しい形で融合させて紹介しようとするものである。昨年、全国の都道府県との連携強化のための募集があった。全国から約40の自治体の応募があり、10前後の自治体が選ばれ、その中に当県も入っている。今年は、二条城と熊本城で開催され、来年度は秋田県が候補の1つとなっている。

今後皆様からご意見をいただきながら、どのようにして秋田の文化を見せられるか検討を進めていきたいと考えている。国内外の方に周知できるため、舞踊舞踏を含めて新しい秋田の芸術など、他と違うものを紹介していけたらと考えている。

○渡邊部会長代理

食も文化と考えている。岡山県のDMOを創設する事業に関わっているが、岡山県の食は意外と特徴がないが、秋田県は食文化がたくさんあると言われた。

本日の部会は、従来と異なり資料の量が多かったので、次回に向けて読み込み、さらに意見を出していきたい。本日の議事を終了し、事務局へお返しする。

□杉山観光戦略課戦略企画班長

以上で、秋田県総合政策審議会第1回人・もの交流拡大部会を閉会する。